

羽村第三中学校 校歌

作詞 並木米一
作曲 児玉洋子

一、白亜^{はくあ}かがやく 学び舎^やは

真理^{まこと}求めて たゆみなく

胸を張る丘 明るき窓に

武相^{ぶそう}の山の 励ましうけて

羽ばたく羽村 羽村三中

二、歴史ゆたかに かおる郷^{さと}

伸びゆく文化 ふみしめて

鍛えきたえる 心と力

まなざし高く 希望にもえて

羽ばたく羽村 羽村三中

三、武蔵野の空 さわやかに

飛ぶ若鳥の 羽光^{はな}る

校章胸に 学びの友の

友情厚く あふるる丘よ

羽ばたく羽村 羽村三中

* * *

作詞のこころ

並木米一

羽村台地にどっしりとそびえ立つ白亜の殿堂、わが学び舎、それは一つの見事な人工丘である。この見事な丘に胸を張って心理を求めつつ、元氣一ぱいたゆみなく活躍する、羽村三中なのである。明るい窓辺には武相の山なみが、はげましのほほ笑みを送っている。

玉川上水・まいまいずの井戸など羽村には貴重な史跡がある。古い歴史を誇りとし尊ぶと同時に、新しく開発されて行く世代を担うものとして、心身を共に鍛え希望にもえ立つ羽村三中なのである。

武蔵野の空を飛ぶ若鳥、自分たちはその若鳥である。そのつばさに因む校章、この校章をつける学友たち、厚い友情とゆたかな人間性に、満ちあふれる羽村三中なのである。

(昭和五十七年九月佳日)

作曲のこころ

児玉洋子

武蔵野の面影を残す雑木林を、通り抜ける風。

小高い丘のように輝く「白亜の殿堂」。

大空に羽ばたく若鳥のように若さ溢れる生徒の歓声。

並木先生のこのすばらしい詩を見せていただいた時、校歌を作るといふ責務の重さに時折、押しつぶされそうになりながらも、「さわやかで、力強く、そして伸び伸びした曲を作りたい。」と心をこめて作曲しました。

この校歌が唇の歌になりますように。悲しい時も嬉しい時も心を合わせ、声を合わせ歌ってください。